

平成30年度第2回九州厚生局地域包括ケア市町村セミナー

生活支援体制整備事業における 地域づくりの展開方法

～どこでも誰でもできる地域づくり～

東北こども福祉専門学院
大坂純

本日の内容

地域包括ケアと地域づくり

- ・ 地域包括ケアへの住民の理解を深めるためには
- ・ これまでの地域支援と地域包括ケア

地域づくりについて

- ・ 地域づくりとは何か
- ・ 他分野で行われている地域づくりとの協働
- ・ 生活支援体制整備事業における地域づくり

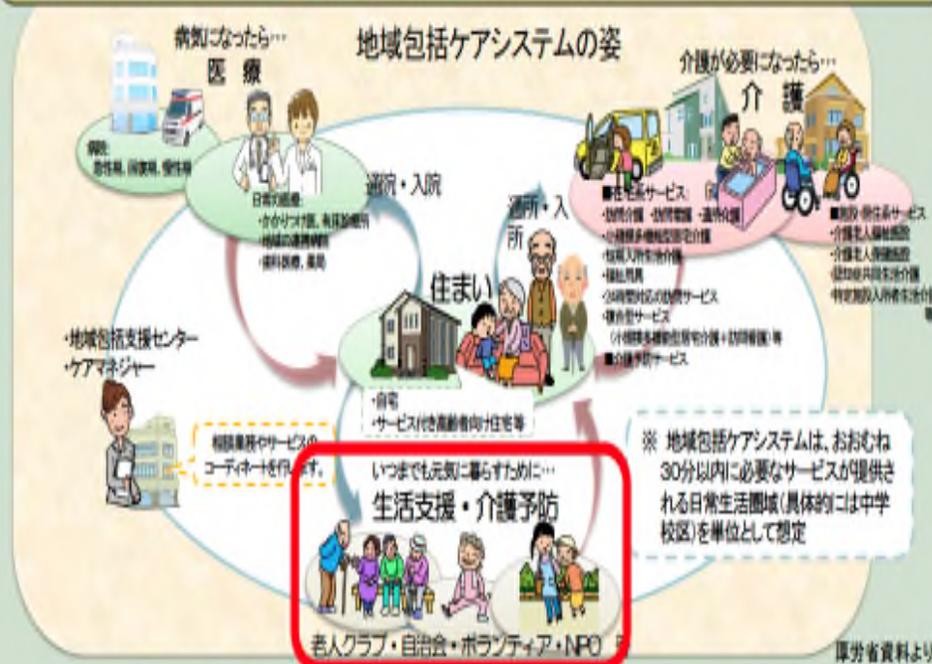
地域づくりの展開過程

- ・ 展開過程を踏まえた地域づくり
- ・ 意味付けの重要性

これまでの地域包括ケアの説明

地域包括ケアシステムの構築について

- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制（地域包括ケアシステム）の構築を実現。**
- 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要。
- 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、**高齢化の進展状況には大きな地域差。**
- 地域包括ケアシステムは、**保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要。**



支え合いによる地域包括ケアシステムの構築について

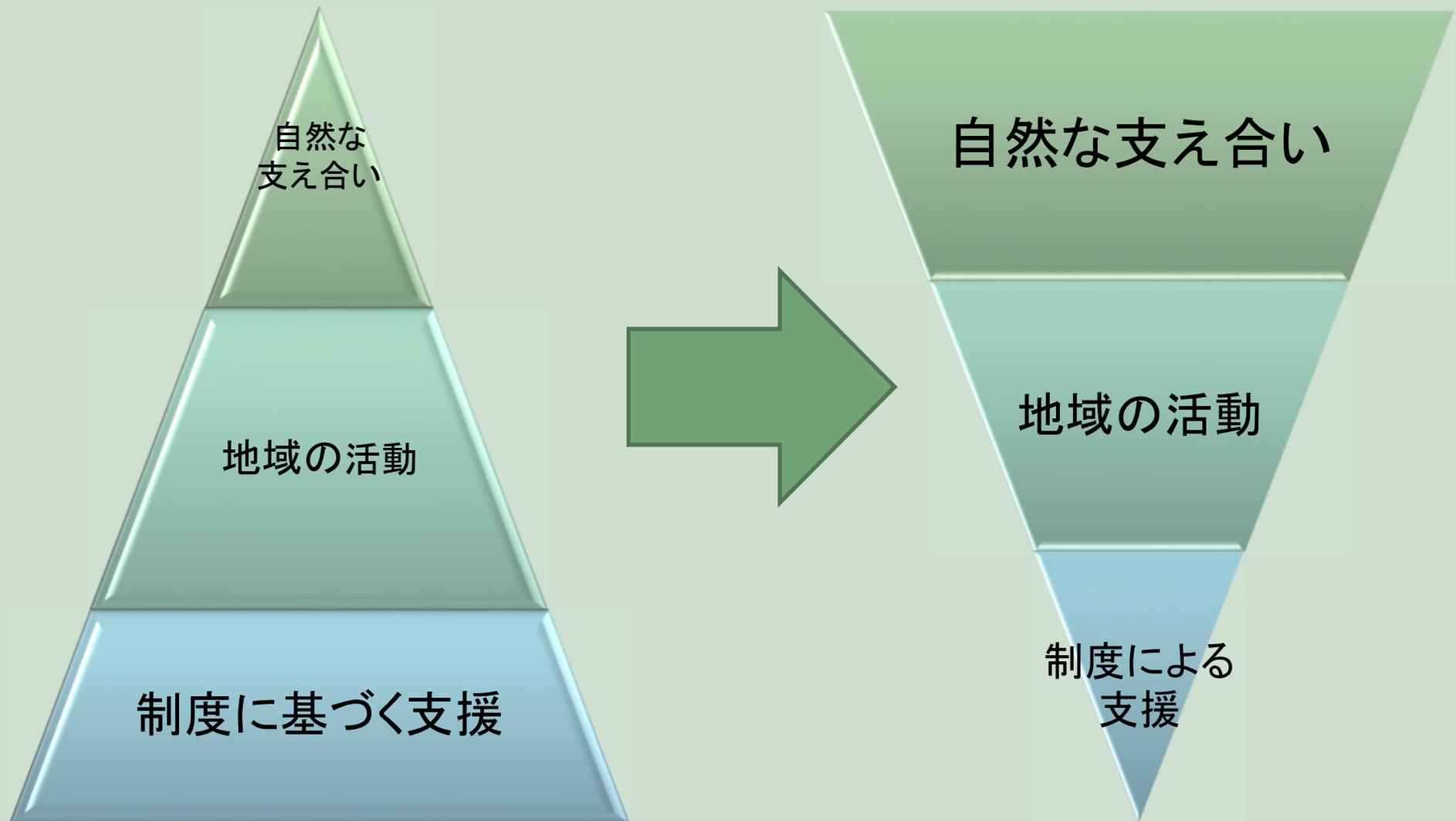
- 地域包括ケアシステムの構築に当たっては、「介護」「医療」「予防」といった専門的サービスの前提として、「住まい」と「生活支援・福祉」といった分野が重要である。
- 自助・共助・互助・公助を（体系化・組織化する）役割が必要。
- とりわけ、都市部では、意識的に「つなぎあわせる互助」の強化を行わなければ、強い「互助」を期待できない。



- 自助：**・介護保険・医療保険の自己負担部分
・市場サービスの購入
・自身や家族による対応
- 互助：**・費用負担が制度的に保障されていないボランティアなどの支援、地域住民の取組み
- 共助：**・介護保険・医療保険制度による給付
- 公助：**・介護保険・医療保険の公費（税金）部分
・自治体等が提供するサービス

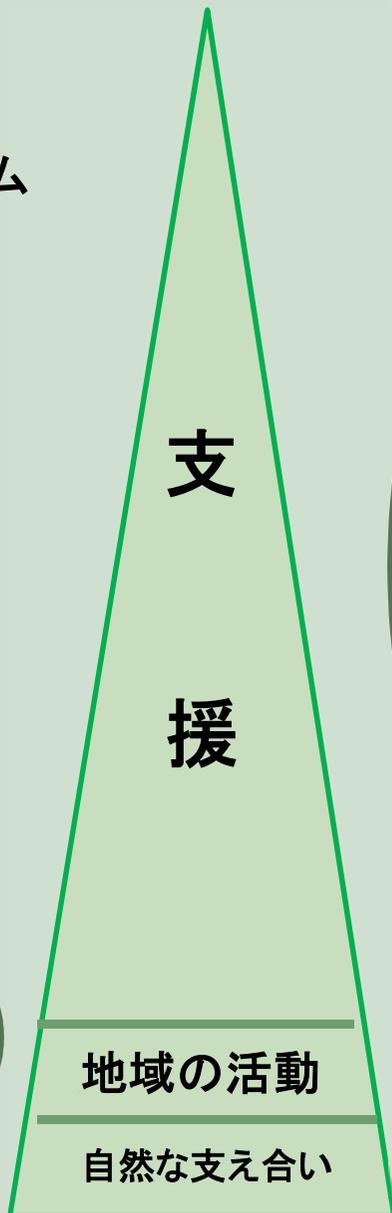
地域包括ケア研究会「地域包括ケアシステムの構築における今後の検討のための論点」(平成25年3月)より

これからの地域支援



地域包括ケアで暮らしを支える

従来の地域支援システム



地域包括ケアシステム

生活支援体制整備事業における 地域支援の視点



制度に基づく
支援



地域の組織
化された活動



自然な支え
合い

つながりを切らない

地域を知るには文化・伝統を 理解することが大切

- 文化とは
人間が暮らしの中で積み上げてきた知恵と工夫により
作り上げてきた生活様式などや、その表現
- 伝統とは
人類の文化の様式や 態度のうちで、歴史を通じて後代
に伝えられ、受継がれていくもの

「危機においてバランスを取るための知恵」
(西部 邁 2017)
- 風習とは
ある地域社会で行なわれてきた特有のならわし

3段階の地域資源 (お宝) の理解

- これまでの制度に基づく社会資源や地域で行われてきたサロンや認知症カフェなどの地域の自主活動に加えて以下のものが含まれる
- 暮らしの中で生まれる自然な人と人とのつながり
- 自然な人と人とのつながりから生まれる楽しみ
- 暮らしの中で行われている意識されない自然な支え合い
- 意識されない自然な支え合いによって行われる地域の課題解決

地域資源の3つの分類

フォーマルな資源



デイサービス
ショートステイ
ホームヘルパーなど

インフォーマルな資源



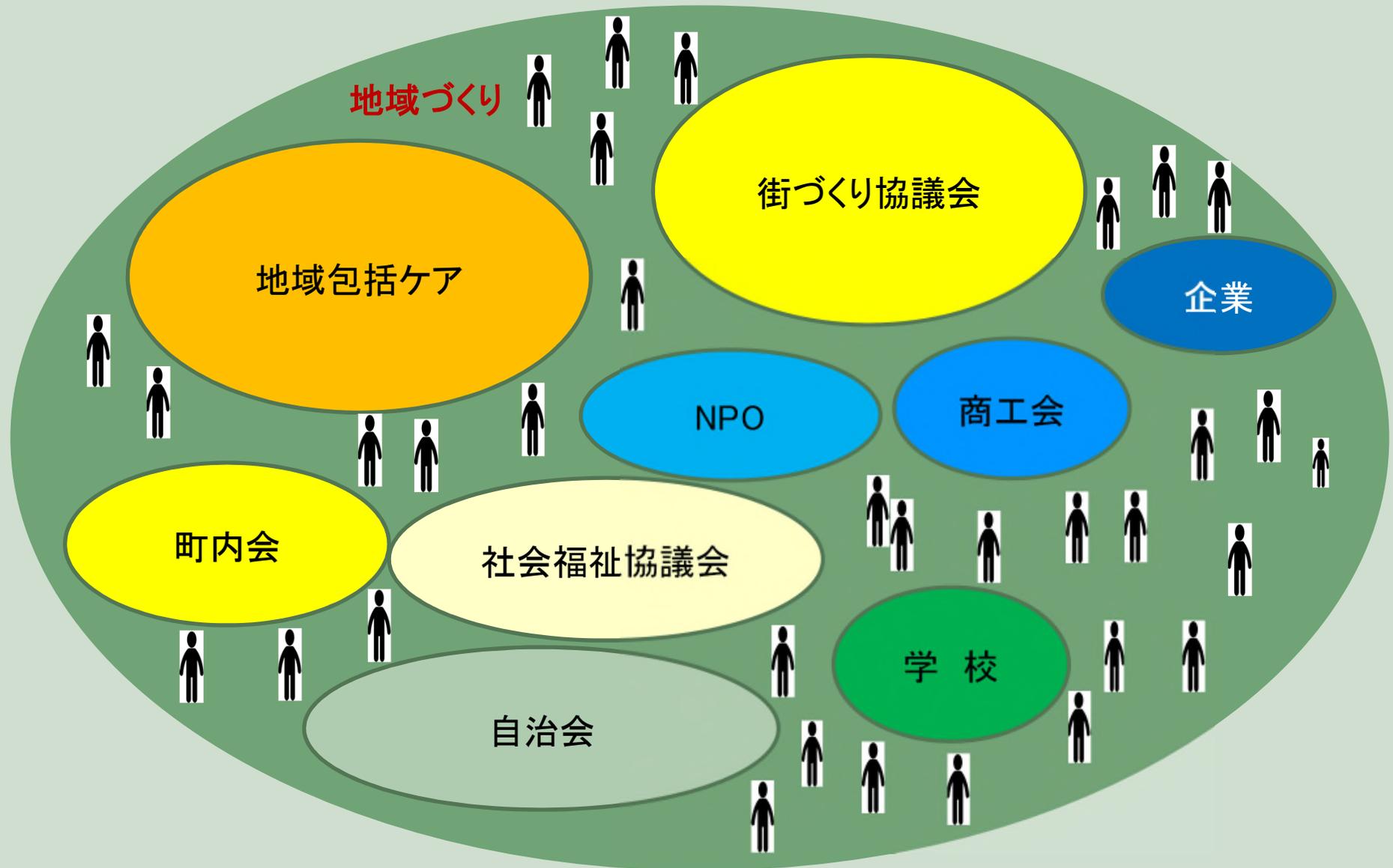
組織化されたボランティア
地区社協のサロン活動
制度外の生活支援サービスなど

ナチュラルな資源



お茶のみ
おすそわけ
趣味活動
ラジオ体操など

地域づくりとは何か



地域づくりとは

- 環境の変化に応じて暮らし続けるため、様々な分野で行われている活動が折り重なって、地域を豊かにしていくこと。
- 街づくりや地域包括ケアなどの様々な分野で行われている活動が、単独で完成できるものではない。
- 他分野の関係者間の連携協働はもちろんのこと、幅広い地域住民との協議の積み重ねが必要条件となる。

地域づくりの留意点

- 地域づくりありきで、住民の暮らしを合わせる
ことではない
- これまで続けてきた住民の暮らしの延長上に
地域づくりを位置づける
- 住民に対する広報活動・普及啓発活動を繰り返
し行い、住民理解を深めることが重要

生活支援体制整備事業における 地域づくり

- 生活支援体制整備事業における地域づくりは、これまでの行政や専門職主体の地域課題解決に加えて、住民が地域で意識せず行ってきた支え合いなどの地域資源（お宝）を育て住民主体の課題解決を促進すること。
- 住民主体の課題解決活動を促進するためには、地域づくりを行う展開過程が重要

生活支援体制整備事業における 地域づくりの基本

- できないもの探しからできているもの探しへ
180° の発想の転換
- 暮らしの楽しさや楽しみを大切にする
- 意識化と意味付けを行う

できないもの探しから できているもの探しへ 180° の発想の転換

- 住民が暮らし続けているところには、積み重ねてきた暮らしの技があり、地域の文化と伝統が育まれています。そして、住民同志つながりがあり、自然な支え合いがある。
- 地域に根ざした課題解決システムを見つけ出して育むことが地域づくりにつながる。

暮らしの楽しさや楽しみを 大切にする

- 暮らしには、普段は意識されない楽しみや安心感がある。
- 地域につながっているという思いや地域で暮らす他の住民とのかかわりが、暮らし続ける大きな力になっている。

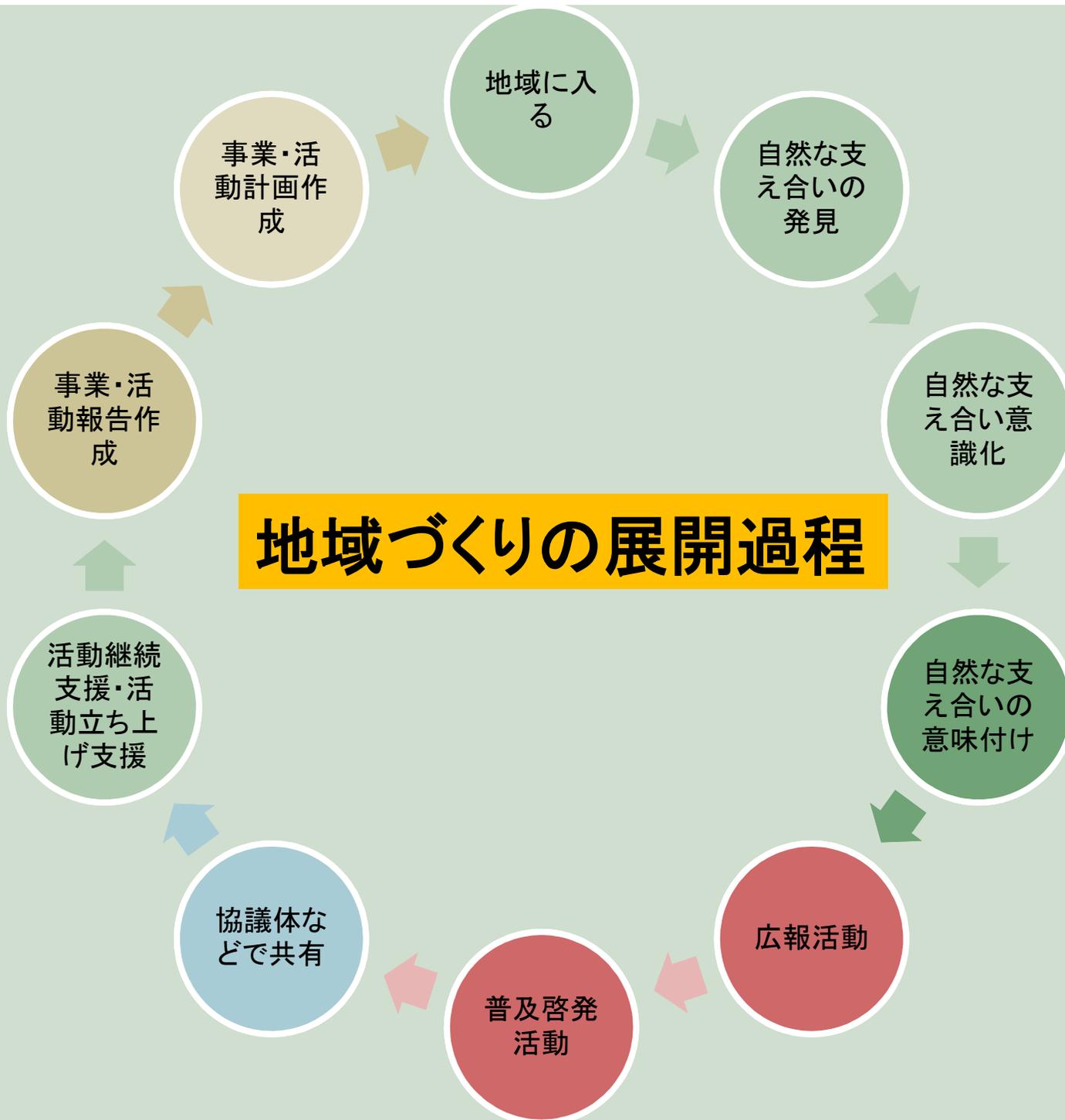
意識化と意味付けを行う

- 人が地域で暮らし続けるためには、どこかと誰かとつながっている。しかし、普段は、当たり前すぎて意識されていない。
- 気にかけることと気にかけている相互作用から支え合いがはじまることを意識化する。
- これまでも地域の課題解決の担い手でもあったことを意識化する。

生活支援体制整備事業開始期における 地域づくりの展開過程

1. 意識されていないが機能している社会資源(お宝)探し
2. 社会資源(お宝)の意識化と意味付け D
3. 社会資源(お宝)の広報活動(見える化) D
4. 社会資源(お宝)の普及啓発活動(見せる化) D
5. 協議の場の設置 C
6. 活動継続支援、立ち上げ支援 C A
7. 活動報告書、事業報告書 C
8. 活動計画、事業計画 P A

地域づくりの展開過程

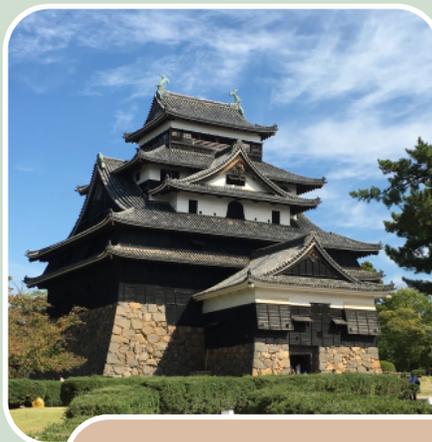


地域住民の暮らしを知る



地域の現状

- ・ 行政のデータ
- ・ 地域包括支援センターが持つデータ
- ・ 地誌的なデータ



これまで行われてきた地域づくり

- ・ 市町村総合計画
- ・ 地域福祉計画
- ・ 高齢者保健福祉計画
- ・ 街づくり計画 など



暮らし文化と伝統

- ・ 住み続けるための技
- ・ 住み続けるための知恵と工夫
- ・ 地域で積み重ねてきた生活様式

行政との協議と支援により理解を深める

地域に入り理解を深める

生活支援体制整備事業における 地域づくりの留意点

- ・地域づくりには、時間を必要とする。事業の継続と進展を保証するためには、事業計画、事業の工程表、事業評価などが必要となる。
- ・街づくりや産業振興などの他分野における地域づくりとの連携協働においても事業計画、事業の工程表、事業評価などによる相互理解が重要になる。

生活支援体制整備事業における 地域づくりの留意点

- 初めから詳細な計画を作ることは、地域の実情との乖離を生むばかりか、地域で続けてきた活動を衰退させることにもつながるので注意する必要がある。また、中長期の計画や工程表の作成は、初年度の実践と上記の協議を踏まえた上で作成していくことが精度を高めることになる。

地域資源の探し方



表に出ている活動を調べる

- ・ 介護予防事業
- ・ サロン活動
- ・ 生涯学習のOB会など

調べた活動に参加する

- ・ 参加者より他の日過ごし方を聞く
- ・ 知っている地域の楽しみを教わる

教わった活動に参加する

- ・ お茶のみ
- ・ 趣味活動
- ・ ラジオ体操など

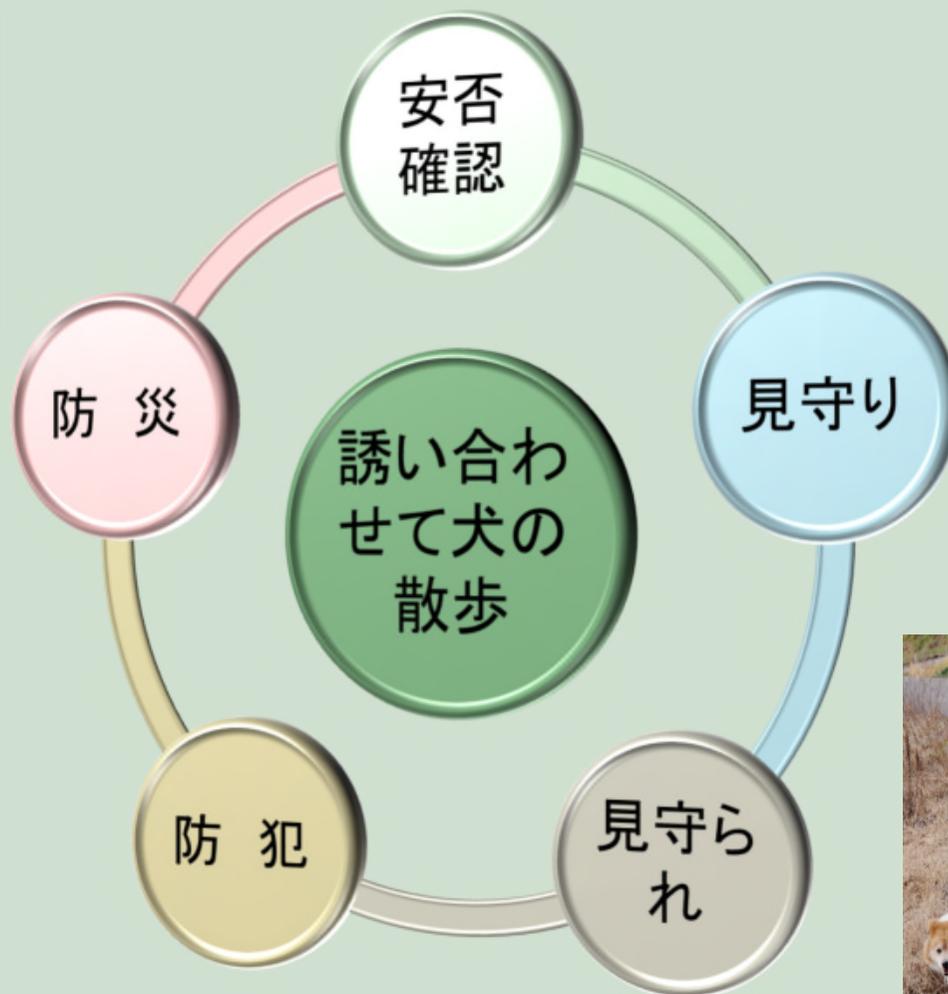
魔法の言葉・・・「他の日はどのようにして過ごされていますか？」

地域資源の意味付けとは、

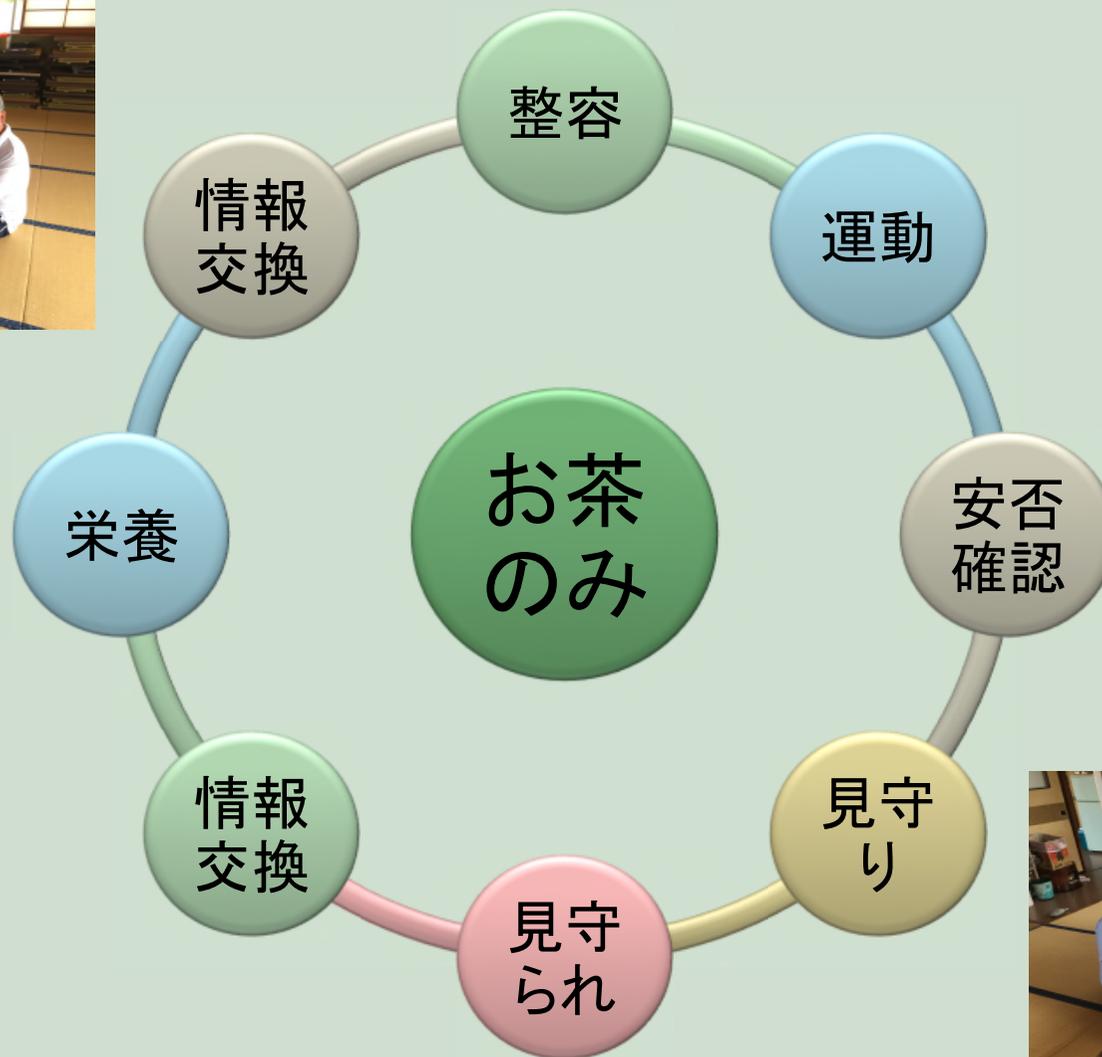
- ・1つの行為や活動が様々な効果や影響を及ぼすことについて、意識化して説明することができるようになること



自然な地域資源の意味付け



自然な支え合いの意味付け



活動の意味付けによる 住民の理解の状況

第1段階 かかわりや活動の楽しさややりがいを感じて行っている状態

第2段階 かかわりや活動を行うことが参加者の意欲向上、社会参加や介護
予防と言う側面もあることを自覚して行っている状態

第3段階 かかわりや活動を行うことが生活支援に繋がっていることを
自覚している状態。(見守り、見守られ、安否確認、ゴミ出しや買
い物支援など)

第4段階 他のかかわりや活動を住民が自覚して意味付けできる状態

第5段階 地域の課題をかかわりや活動から解決しようと試みることが出来る
状態

情報発信・広報活動



組織内へ向けた広報 活動



掲示物作成



行政や組織内外の広報誌にスペースを確保



独自の広報誌創刊



地域のマスコミへ働きかける(CATVなど)

普及啓発活動



活動発表会

- ・ 第2層エリアの発表会
- ・ 第1層エリアの発表会



地域活動の冊子作成

- ・ 活動紹介
- ・ 地域活動マップ



介護予防手帳などを活用する

- ・ 介護予防事業と体制整備事業のかかわり
- ・ 自立プログラムと体制整備事業のかかわり

委託契約に盛り込む内容



住民の暮らしを把握するための調査

情報発信
広報活動



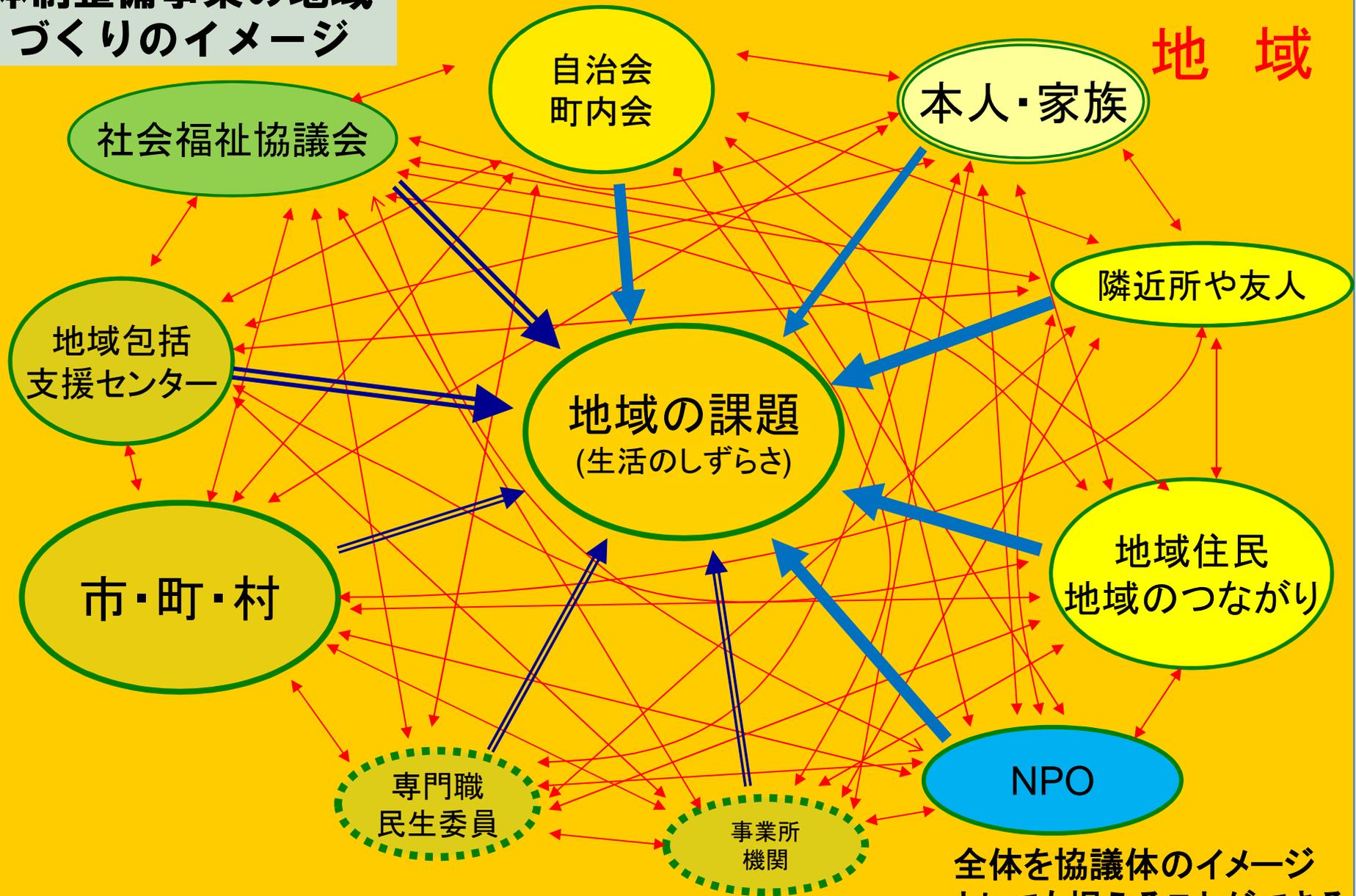
普及啓発活動

人材養成
活動



体制整備事業の地域 づくりのイメージ

地域



全体を協議体のイメージ
としても捉えることができる

終わりに



住民の参加が地域包括ケアの成否を握っている



地域づくりの意味を曖昧にして進めない



地域づくりを行う機関・団体・個人との連携協働が重要



地域づくりは、協議の積み重ねが最重要



地域の実情に合わせた地域づくりの展開をパッケージ化して計画的に進めることが重要